

目標達成計画

事業所名：グループホーム ポランの家

作成日：令和元年10月2日

市町村受理日：令和元年10月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践⇒理念も年数と共にスタッフに強い自己覚知が無ければ形骸化してしまう危険があります。具体的なケア課題が具現化しても、このため、必要とする理念にフィードバックしながら対応することが出来なくなってしまいます。多忙な中においても職業人としての自己覚知の強い認識が必要です。	理念というのはお題目的なものではなく現実的なケア実践の為の(ポランの家においては)倫理指標であるため、共有的日常の関わりの中で常にフィードバックしていく感覚・姿勢を獲得していく必要があるため、そのことについて強い再認識をしてもらいます。	理念的ケア実践論と現実的なケア実践とに「乖離」が無いかが検証していく必要があります。夜勤者はホーム長室へ介護記録を持ってきます。この時間を利用して、もし乖離的な対応があれば、そのことが乖離的なケアであることを指摘し改善するようアドバイスをして行きます。	令和2年12月
2	13	職員を育てる取り組み⇒利用者ご本人の個別的な課題を全体性から捉えていくと柔軟性に欠けることがあります。従って、ケア課題に対し何故の思考の脈絡に脆弱さがあります。それ故にケア課題の本質的なものに辿り着けず、所謂対症療法的なケアになってしまうことがあります	介護は「科学」と言われますが、ポランの家における「職員が育てて行って欲しい」到達点は、「何故・WHY」を体質的に獲得し、ケア課題が具現化した場合も仲間たちと「結果」には必ず「原因」があるという姿勢で取り組んでいってまいります。	「どうしてなんだろうね」という言葉で、スタッフ一人一人が素直に、「WHY」=原因を考える様なミーティング場面を作っていきます。	令和2年12月
3	6	身体拘束をしないケアの実践⇒身体拘束という言葉は「心身一体的拘束」と理解していますが、「何気ない言葉が心を拘束してしまう場合」があります。一般論的には心の拘束は身体拘束の概念外であると思われている方もいるようですが、根本は同じと考えています。	多忙な日常の中でつい「審判的」な言葉を発してしまいます。先ほどから「WHY」という言葉を使っていますが「WHY」=何故、この姿勢こそが、拘束を無くして一歩だと考えています。そして自己並びに相互の倫理規範を確立してもらいます。	身体拘束は、私たちには無関係という感覚ではなく、その本質は「心の拘束でもありその苦しみののだ」、ということを経験等とおしながら認識してもらい、また入居者の方を生活者の一人として、その全体性、生活史からケア課題を見ていく姿勢を作っていくよう助言をして行きます	令和2年12月
4	18	本人と共に過ごし支え合う関係⇒介護される側⇔介護する側、という関係性は、人の本性として心身共に疲れてくると「介護する側」の体質は「介護してあげているのに」という体質に変質してしまう危険性を孕んでいると思います。(介護者一般論として)	この事を乗り越えていく為にはまず入居者の方の生活史をしり、いま私たちは、その方たちのラストステージに関わっているのだ、という認識を強く持ち必要があります。そのために自己覚知の認識を強めながら自分たちの仕事に対するアイデンティティーを高めてもらいます。	目標である認識法は関わりの方を変えていきます。スタッフの言動が入居者のラストステージを左右する、つまり日常的な「QOL」の向上にもつながり、「グループホームがまさにもう一つの生き方(ラストステージ)」を保障していく大事な場所であることを認識してもらいます。	令和2年12月
5	23	思いや意向の把握⇒高齢者認知症の方の言葉には、脈絡が不鮮明なことが多いのですが(いわゆる意味不明)、スタッフはその言葉を顔面どおり解釈せず何と言いたいのか、伝えたいのか、真摯に耳を傾ける必要があります。	今、発している言葉だけでは言いたい事、伝えたい事は難しいことです。そのためには、生活史、昨日・今日と云った日常生活上の事柄履歴、環境等を総体的に「点と点を結び線とするような理解」をする必要があります。こうしてご本人の自己実現につなげたいものです。	一つの言葉には多重性があることを十分理解してもらおう。本当の意味で、自分の心が伝わることの嬉しさはスタッフも同じです。自分に置き換えて、多面的に言葉を捉えるよう相互に訓練をして行きます。(そういう意味で言っているのかな？それだけの意味なのかな?)というように。	令和2年12月

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。